

## とことん真面目に万博・IR カジノの真実を語る

3日午後開催された「うずみ火講座」に参加した。講座参加は久しぶりだ。講師は前市会議員の川嶋広稔さん。大阪市会で維新政治と対峙してきた自民党市議団の論客であり、市会を傍聴して川嶋市議の鋭い質疑に注目してきた。川嶋さんは表題について、多くのスライドにより90分にわたり問題を投げかけた。とりわけ印象に残ったこと、示唆を得られたことなどを箇条書きでレポートに記録しておきたい。

- ・なぜ万博会場が夢洲となったのか。当時の松井知事が2016年6月の2025年万博基本構想検討会議に提出した「試案」により、当初は候補地でなかった夢洲が会場として急浮上した。夢洲へのIRカジノ誘致と関係している。（「松井試案」は私も10月12日にレポートで紹介している。）

- ・とんでもない費用がかかること。会場建設費2350億円が問題になっているが、運営費の増大、インフラ整備の膨張にも注目する必要がある。トータルで4000~5000億円の費用がかかるであろう。とりわけ大阪市の負担が大きい。

- ・大阪パビリオン以外は万博終了後、すべて撤去する予定だ。大屋根など再利用は具体的に何も決まっていない。SDGsの観点からも問題だ。万博の跡地利用についても決まっていない。

- ・ビッグプロジェクトで陥る罠。「これまでの投資が無駄になる」というだけの判断は最悪の判断。「今後の投資」が効果・メリットより大きくなる場合は、プロジェクトを中止ないし変更すべし。

- ・IR工事と同時進行による影響は大きい。万博とIRカジノによって、神戸港にシフトしてしまう。夢洲の物流拠点としての役割が果たせなくなる。夢洲は国際物流拠点から国際観光拠点に変質する。

- ・IRカジノについては、募集要項の修正など誘致の経過に注目。途中からMICEのためのIRから、カジノのためのIRに変質してきた。このままでは行政が「カジノ依存症」になってしまう。

- ・大阪市がIRカジノ土地対策に788億円負担するが、夢洲2期・3期の事業費を含め1568億円と試算した。IRカジノだけでは住民訴訟のリスクとなるので、その対策として試算したのではないか。

- ・国からの7つの指摘は重要であるが、大阪府市は今後の検討課題と考えている。6月に大阪市会でIR推進決議を採択したが、自民党も賛成した。IRカジノについての議会のチェック機能が果たせなくなる。

- ・9月5日の副首都推進本部会議で説明されたIR推進局資料によると、鉄道（地下鉄）が南ルートだけでなく、北ルートも明記されている。さらなる鉄道延伸を考えているようだが、採算をどう考えているのか。液状化対策など土地対策も問題が多い。

(2023年11月5日)